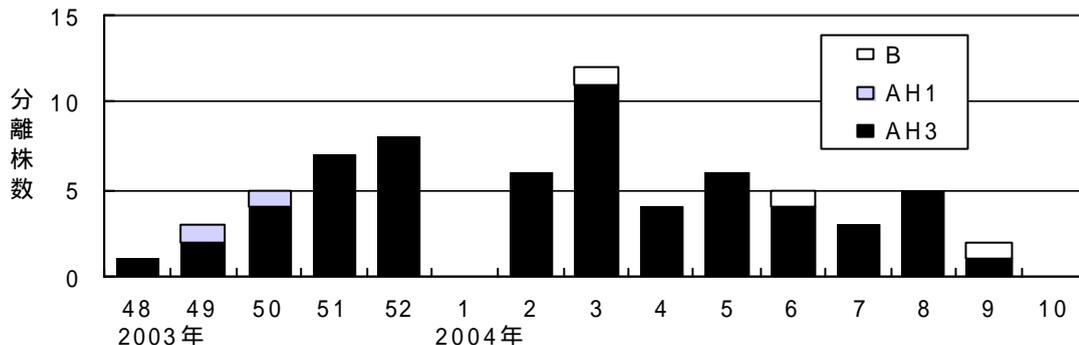


インフルエンザ - ウイルス分離状況 -

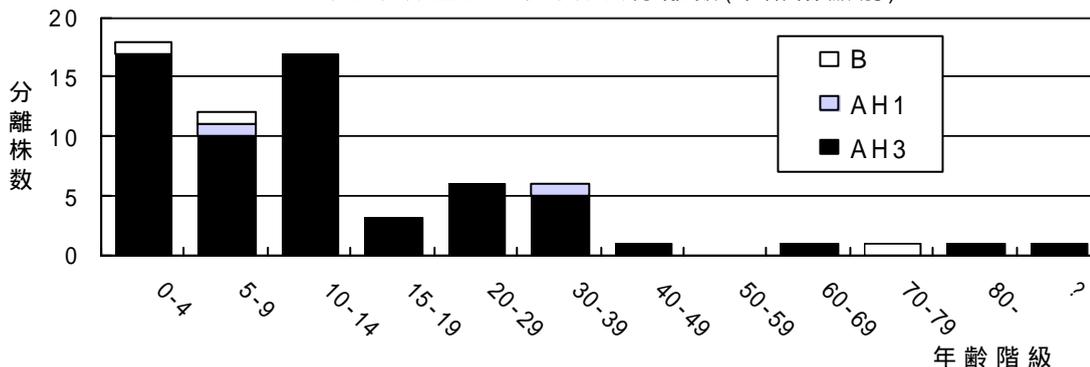
今シーズン国内で分離されたインフルエンザウイルスは、A 香港(A(H3N2))型、B 型、A ソ連(A(H1N1))型の 3 種類です。シーズン当初から A 香港型が圧倒的に多数(2 月 27 日現在 全国報告数 2385 株)であり、B 型が少数(同 56 株)、A ソ連型は 3 株のみの分離です。報告患者数からみると、昨シーズンとほぼ同様かやや小規模な流行であると思われます。

埼玉県内のインフルエンザウイルス分離状況を検体採取週別(図 1)及び年齢階級別(図 2)に示しました。2003 年 48 週から 2004 年 10 週までに約 130 件の呼吸器感染症を疑う検体の搬入があり、それらから分離されたインフルエンザウイルスは 3 月 5 日現在で A 香港型 62 株、B 型 3 株、A ソ連型 2 株です。その他にはアデノウイルス 3 型(6 株)、RS ウイルス及びエコーウイルス 6 型(各 1 株)などが分離されています。

インフルエンザウイルス分離数(採取週別)



インフルエンザウイルス分離数(年齢階級別)



県内の A 香港型分離株の中に、ワクチン株と抗原性が若干異なると思われる株が少数ながら認められています。また B 型分離株はワクチン株とは抗原的に異なる系統のものです。

今シーズンのインフルエンザ流行は、既に終息に向かっていると思われますが、シーズン後期及び非流行期に分離されるウイルスが、翌シーズンの流行ウイルスを予測する上で重要視されています。病原体定点の先生方には、引き続き検体採取に御協力をお願いいたします。

インフルエンザに関する全国情報は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>) で御覧いただけます。